

令和 8 年度の発掘調査について（中間報告）

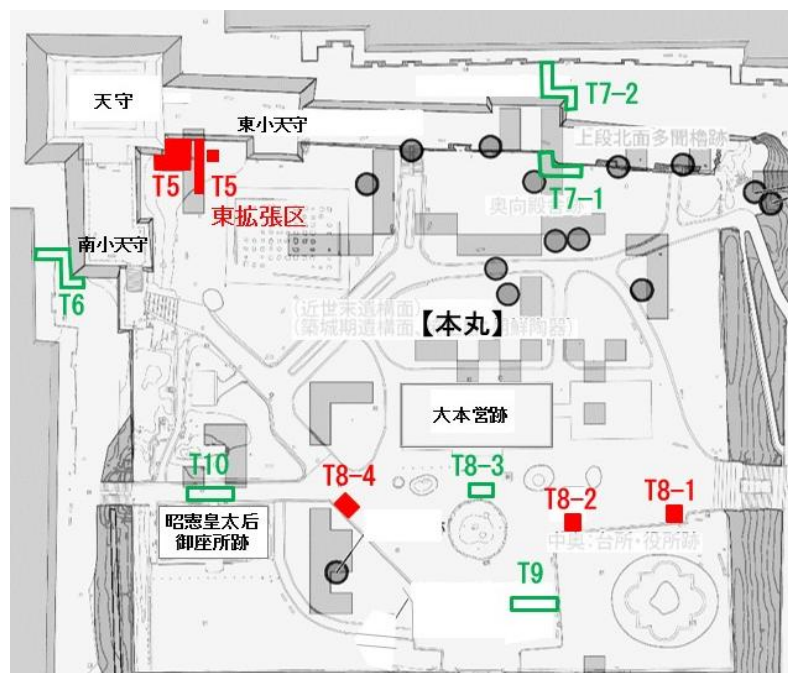
今年度の発掘調査は、調査地点が多いことから分割して実施している。今回は、7月に実施した第1回についてその概要を報告する。なお、第2回は本年9月から12月にかけて実施する予定であり、第1回、第2回を合わせた今年度の発掘調査の成果は、次回の保存活用会議で報告する。

1 第1回調査実施箇所

- (1) 天守台南東隅部
T 5
- (2) 天守台南東隅部
T 5 東拡張区
- (3) 本丸上段南側
T 8-1・2・4

2 第1回調査実施期間

令和 8 年 6 月 29 日（月）
～ 8 月 5 日（水）



3 調査区ごとの概要

- (1) 天守台南東隅部 T 5

ア 調査目的

天守台南東隅部の基礎接地面、周辺堆積層及び石材の加工状況等の把握

イ 主な調査成果

広島城本丸上段の築城時の堆積層が、人為的に造成されていたことが改めて確認された。

ウ 検出状況及び所見

- ・天守台南東隅部は、石垣下部二段が盛土で埋め戻され、その上面に築城初期の地表面が形成されていた。
- ・石垣が接地している堆積層は、下部二段を被覆している盛土層と同一の特徴を有しており、いずれも人為的な造成土層であると考えられる。
- ・築城初期の地表面上には、粗粒砂が 3～5 cm 程度の層厚で存在した痕跡が認められ、表面排水を意図した施工であった可能性がある。



T 5（南から）

(2) 天守台南東隅部 **T 5 東拡張区**

ア 調査目的

古写真等に見られる、本丸上段部から東御廊下へ上がる「玄関」の石積基礎部の確認と、構築時期等の把握

イ 主な調査成果

古写真等に見られる「玄関」の二段の石積を確認した。その構築時期は、築城初期に遡る可能性が高い。



T 5 ・ T 5 東拡張区（南から）

ウ 検出状況及び所見

- ・石積は二段で構成され、設置面標高は築城初期の地表面からわずかに下がる。
- ・周辺石垣との関係や周辺土層の観察から、天守台石垣・東走櫓・東小天守台の構築後、一連の流れで構築されたと考えられる。
- ・本遺構は、近代以降に石積天端石の移動や石段の増築等の部分的な改変を受けたことが、堆積状況からも認められた。

(3) 本丸上段南側 **T 8 - 1 ・ 2 ・ 4**

ア 調査目的

既設埋設設備の位置特定及び堆積層・地下遺構遺存状況等の把握

イ 主な調査成果

地下埋設設備の敷設深度が浅く、また、近世遺構の保護層が薄い地点が確認された。



T 8 - 1（西から）

ウ 検出状況及び所見

- ・事前に実施した地中レーダー探査（以下「GPR 探査」という。）判読結果と今回の調査結果は概ね整合しており、今回の調査地点における事前探査の有効性を確認した。
- ・地下埋設設備の敷設深度は現況地表面下約 20～50 cm であり、周囲の土層厚も地点によって大きく異なることから、維持管理や事業実施の際には地下埋設設備及び地下遺構の保護に十分留意する必要がある。
- ・基本層序は、概ねこれまで天守台石垣周辺で確認されていたものと同様（1a 層：現代の公園盛土層、1b 層：戦後の火災整理層、2 層：近代の堆積層、3 層：近世の堆積層、4 層：築城に係る造成土層、T 8 ではいずれの箇所も 3 層上面までを確認）である。ただし、今回調査した地点では、全般的に近世遺構を保護する被覆土が薄いことが確認された。

- ・今後、本丸上段南側の他の地点についても同様の調査を実施し、既設埋設設備の更新・再配置や、整備に伴う地形造成等を検討するための情報の取得を引き続き進める。



T 8 - 2 (東から)



T 8 - 4 (南から)